

一般社団法人 Com aqua 設立記念シンポジウム

このシンポジウムでは、さまざまな「しずく」をつなげて参ります。
開演30分前、ワクワクの瞬間。既に人だかりが出来ていました。
初めてのイベント、段取りや進行は・・・心配と不安の中、どんどんと時間が進みます。
役員自ら受付係りを行ってお出迎えです。



本日、総合司会を務める Com aqua 副代表理事 兼 事務局長の河合美奈子です。
始めまして(^O^)/ みなさんの「しずく」とつながるパイプ役をしっかりと務めます。



開始直後！・・・スクリーンが下りてくる時に後ろにあった看板が「ビリビリっ」と音を立てます。看板が破れてしまいました。そのあとすぐに始まるはずのオープニングのプロジェクションマッピング“aqua planet”は、すぐに始まらず、会場は真っ暗なまま。手元のストップウォッチはスタートしたままズレてしまいました。これらと一緒に動揺した私は、ナレーションは早くに終わってしまい、とアクシデントに見舞われながらの悪戦苦闘のスタートでした。

“aqua planet”では地球が水の惑星として誕生～そして人類の誕生～人と水との関係、水との賢い付き合い方は一体どういうこと？そして、怖い水へと・・・ホームページのナレーションのところにこの時の台本を掲載していますので是非ご覧ください。

オープニングのプロジェクションマッピングの様子です。



最前列の3名のスピーカーの方らの熱い視線を感じながらスタートしております。



会場が明るくなりました。こんなに沢山の方にお集まりいただきました。

当初の予定よりも40席増やし対応致しました。新聞広告などご覧で当日も増え続け、とうとう立見までの反響となり、嬉しい悲鳴です。

手前より中川榮様、そして田中義孝様、頭だけ見えている吉川哲雄様らスピーカーの方々です。



手前には九州や東京からも駆けつけて頂いた講演者が勢ぞろいです。

嘉田知事は会場を見渡し準備万端です。門川市長は公務のため到着がまだです。

最前列には、嘉田知事（後姿）そして、竹村公太郎様（東京）。

2列目手前から 渡末しのぶ様（大分）、鈴木康久様（京都）。

向こう側のテーブルにはインドネシアより Agnes Rampisela 様、と重森篤様（滋賀県）。

<水の環>に合わせて青色のネクタイや衣装でお越し頂いたとお気遣い有難いです。

会場には140名のギャラリーらが資料を真剣に見入られておられます。
資料には講演者さまらの特別な想いが込められたものばかりです。とっても内容が濃く、
Com aqua への期待まで有難いです。

当初、用意していた資料も100部のみでした。
どんどんと増え続ける人数に対応出来ずに申し訳ない気持ちでした。

いよいよ第1章「つながり はじまる」～ 代表理事 渡邊紹裕がご挨拶です。
珍しく緊張している顔つきです。しかし、すぐにいつものトークに戻りました。さすが。



その前では竹村さま、嘉田さまらは余念なく資料に目を通されておられます。



ここのコーナーのコーディネーターは實理事が務めます。
一組ずつ丁寧につなげて行きます。

まずは、「かっぱ つながり」・・・



トップバッターはカッパ研究会の鈴木康久さまです。



カッパ研究会（京都）

2003年3月に開催された第3回世界水フォーラムに向け「千年の都 京の水文化」の発信を目的に発足し、そこで成果を発信した。それ以降も、京都で、京の水文化の調査・研究を中心に着実に活動を進め、京都が「水の都」であることを発信し、新たな水と暮らし「水の文化」を模索し、持続可能な循環型社会を京都から作り上げることを目指している。

次は渡末しのぶ様です。



杵築八坂かっぱクラブ（大分）

大分県杵築市八坂小学校で、PTA や地域の有志が中心となって、1998 年に発足した。八坂地区の川や海など自然体験を中心に、歴史や文化を学び、助け合いの心や自ら学ぶ力を身につけ、「生きる力」を育むことを目的にする。八坂川流域の自然観察会、河口の清掃活動、地域の環境・歴史・文化の学習会を開催する。2013 年には第 2 回アジア・太平洋水サミット（タイ）に参加。2013 年 9 月には環境大臣表彰を受けている。

つぎに「たんぼつながり」・・・Agnes Rampisela 様インドネシアの田んぼとつながります。



Lembaga Pelangi-NGO 虹の会（インドネシア・スラウェシ）

インドネシアのスラウェシ島の NGO である。スラウェシ東南部は、産業はレンガ造りや竹編みくらいで、国内でも最も貧しい地域の一つである。最近、雨季の水稲作に加えて、ダム建設により乾季の灌漑稲作が拡大し、新たな水利用の仕組みが必要となっている。「虹の会」では、水管理組織の形成を支援するほか、大豆の栽培・加工技術、子供の読書機会、女性の地位向上、健康維持の指導・支援を進める。JICA も援助を行っている。

「たんぼつながり」は両団体ともやはり地域住民の連携がキーワードになっています。



作成された ppt には沢山の問題定義や事例など、貴重な資料などが含まれ、Com aqua への思いまで込められているのには感謝の気持ちでいっぱいです。

重森 篤様です。



水土里(みどり)ネット愛知川沿岸（滋賀）

正式名称は愛知川沿岸土地改良区。土地改良区は、1949 年制定の土地改良法によってできた農家組織で、水路や溜池などの農業用の水利用施設の維持や管理を共同で行う。愛知川沿岸土地改良区は、琵琶湖の東南にある東近江市にあり、愛知川沿岸の約 8,000ha の農地（水田）への用水の供給を、上流の永源寺ダムからの補給を中心にして、農家や関係する集落との密接な連携の下で、管理調整している。現在、新たな国営の事業の実施の準備が進められている。

そして、次のグループ 「みずべ つながり」 へと進みます。

中山 榮様



アイラブ城北川プロジェクト（大阪）

大阪市城東区の区民で組織する「城北川アメニティゾーン化計画実行委員会」が城東区役所と協働して作成した計画の愛称である。城北川一帯が「城東区が誇るランドマーク」「いつでも自由に憩い・集い・楽しいと感じる親水エリア」となって、地域の輪がよりいっそう広がることを目指している。実行委員を中心にして、少しずつ、区民、地域活動団体、学校や企業などと連携して、城北川を中心にして、さまざまな楽しい催し物を実施してきている。

それから、水の流れていない堀川に奇跡ともいえる水が流れる堀川を創った

吉川 哲雄様です。



堀川と堀川通りを美しくする会（京都）

京都市の中心部の堀川及び周辺地域の住民が主体となって 1985 年に発足。以来、堀川及び堀川周辺の美化活動及び河川環境向上のための啓蒙活動を継続的に実施している。平安京造営時に運河として整備された堀川は、近代になって農業用水や友禅流しにも用いられていたが、1960 年代後半に治水対策から水源を断たれ普段は水なし川となっていた。堀川水辺

環境整備事業により, 2009 年に琵琶湖疏水分線から導水され, 堀川にせせらぎが復活した.
この事業とその後の整備や活用に大きく貢献してきた.

最後のグループ「しずく つながり」～

田中 義孝様です。



針江生水の郷委員会（滋賀）

滋賀県高島市新旭町の針江地区は、豊富な湧き水「生水（しょうず）」を飲料水とするだけでなく、江戸時代から続く「川端（かばた）」という生活用水システムを、針江生水の郷委員会を設立して、地域一体として守り続けている。琵琶湖周辺の豊かな自然や水辺の暮らし、地域の人々に触れながら、暮らしを見つめ直すきっかけとなるようにと、「かばた見学ツアー」を提供している。平成 20 年「平成の水百選」に認定され、平成 23 年には環境省・日本エコツーリズムのエコツーリズム大賞優秀賞を受賞。



嘉田知事も研究をされたこともある針江地区だけに思わずタブレットで一枚「パシャっ！」
この愛用品のタブレットはどここの会場でもご持参されていますよ。

つぎに Philippines の ILOILO 島のご紹介です。代読は河合美奈子が務めました。



後方スクリーンで流れているビデオはホームページからご覧いただけます。
素敵な曲に合わせてPVです。是非ご覧ください。彼らの心が見えて来ます。

彼らとの御付き合いは JICA'S World という一冊の本から。ところが甚大なる被害の台風 18 号の影響で現地との折衝に問題も出ましたが精一杯、現地で働く彼らとは素敵なつながりができました。彼らのメッセージもホームページに掲載しております。



Association of Disabled Persons-Iloilo (フィリピン・イロイロ州)

イロイロ障害者協会といい、障害者が経営する障害者のための NPO である。「憐みではなく、チャンス」をモットーに、障害者に役割と責任を与え、障害者が社会との関わりの中で自尊心を回復することをめざす。設立から 22 年経ち、メンバーがそれぞれ強みを発揮し、身体的ハンディキャップを乗り越える経営を続けている。活動の一環として、段ボールを漉きなおして作るカードを作成していて、Com aqua は「しずくカード」(会員証の発行に使用)を作ってもらって、水つながりを広げながら、支援することになっている。

これらの様に 8 団体の活動の連携を行うことで「水」に対する関係活動を行い、それらを通じて水問題の解決に繋がる地域や人びとの意識の向上、具体的な対策などを考えていこうとする誰でも参加できる有志が集まった団体です。

サークル、大学内、職場内、地域内だけでなく、それ以外の異なった職種の人たちや地域住民、NPO 各種団体の国内や海外の団体と交流したり、ネットワークを持つことができます。

Com aqua は小さな団体らの連携から、大きな成果へ発展することに喜びを得ます。そして、参加されたひとつずつの「しずく」が水の様にしっかりと結びつくことを目指します。